

## 薬剤疫学

[講義] 第2学年～第3学年 後期 選択 1単位

《担当者名》小林 道也 (薬学部)

### 【概要】

薬剤疫学とは、「人の集団における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問」と定義されている。薬物の効果や副作用に関する研究には、医薬品開発の際に行われる「治験」と、医薬品が市販された後に行われる「市販後調査」ならびに「臨床試験」がある。臨床試験において得られた結果は、薬物療法を行う上での根拠(エビデンス)となり、これを利用した医療(Evidence Based Medicine ; EBM)が最近注目されている。この講義では、薬剤疫学ならびにEBMの基本概念と有用性について理解し、薬剤疫学研究に関連する情報を評価する能力を修得する。また、臨床における薬剤師業務において、これらの知識や技能がどのように活用されるかについて理解する。

### 【学修目標】

薬剤疫学的基本的概念を理解し、医療におけるその重要性を説明できる。

EBMの基本概念と有用性を理解し、実践できる。(知識・技能)

医薬品開発における臨床試験デザインの設定や、得られた結果を評価できる。(知識・技能)

医薬品情報管理において、薬剤疫学の知識・技能を応用できる。

### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

### 【ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

### 【実務経験】

小林道也(薬剤師)

### 【実務経験を活かした教育内容】

薬剤師としての経験に基づき、添付文書やインタビューフォーム、審査報告書、さまざまな臨床研究論文において利用される薬剤疫学研究の手法・特徴と、解析結果の解釈等について講義する。